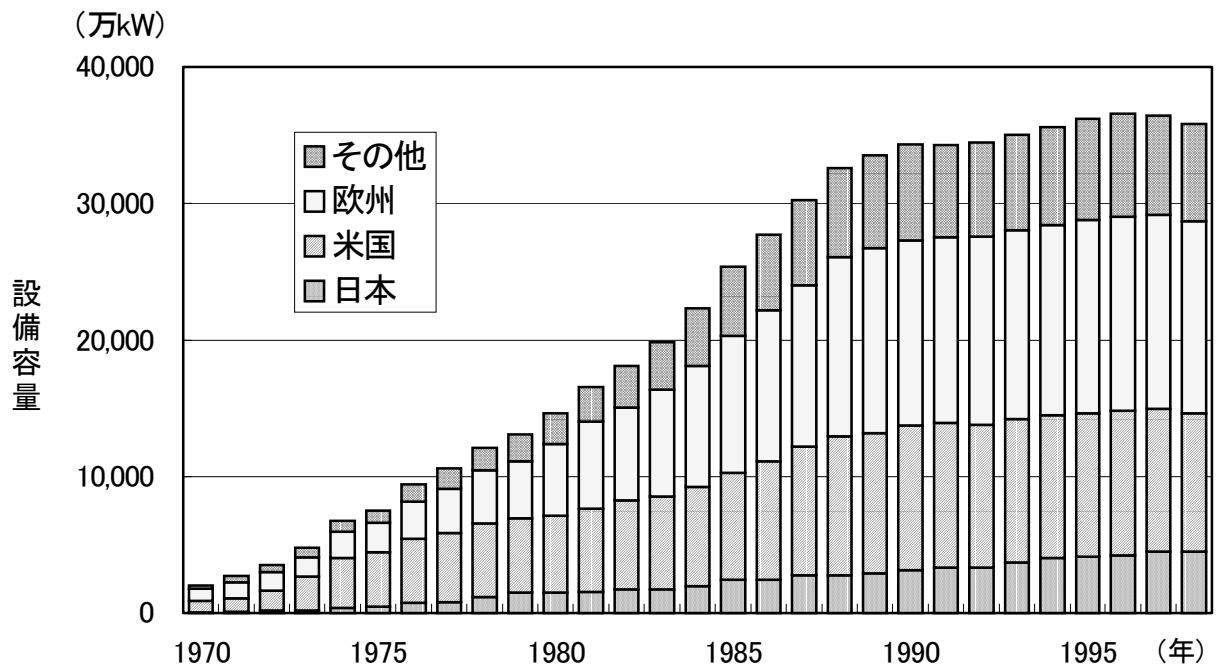


参 考 资 料

参考資料リスト

1. 世界の運転中原子力発電所の設備容量の推移
2. 世界及びアジアのエネルギー消費の地域・燃料別将来予想
3. 主要先進国のエネルギー輸入依存度(1997年)
4. 日本の一次エネルギー総供給構成の推移
5. 我が国の輸入原油に占める中東依存率の推移
6. 化石燃料からのCO₂排出量と大気中のCO₂濃度の変化
7. 地球温暖化防止
8. 部門別の最終エネルギー消費の推移
9. 各国のGDPあたりの一次エネルギー消費量の推移
10. 燃料種別毎の日本の年間発電電力量の推移
11. 各種電源のCO₂排出量の比較
12. 発電システムのリスク比較
13. 我が国の原子力発電および各種電源の運転年発電原価
14. JCO事故後の我が国の原子力安全規制の強化と原子力災害にかかる防災対策について
15. 我が国の軽水炉運転経過年数
16. 鈹工業の原子力関連売上高と電気事業者への納入比率
17. 電気事業の原子力関連支出高と技術系従事者数
18. 鈹工業の原子力関係従事者数と原子力関係研究支出高
19. 核燃料サイクル
20. 核燃料サイクルのウランの流れ
21. 使用済燃料のリサイクルと直接処分
22. 世界のプルサーマル実績
23. MOX燃料とウラン燃料のコストの比較
24. 放射性廃棄物の処分方法
25. 放射性廃棄物の種類と処分方法の対応
26. 放射能の推移から眺めた高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)の特徴
27. 高レベル放射性廃棄物の処分方法(地層処分の概念)
28. 高レベル放射性廃棄物処分に係る海外の動向
29. 特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律

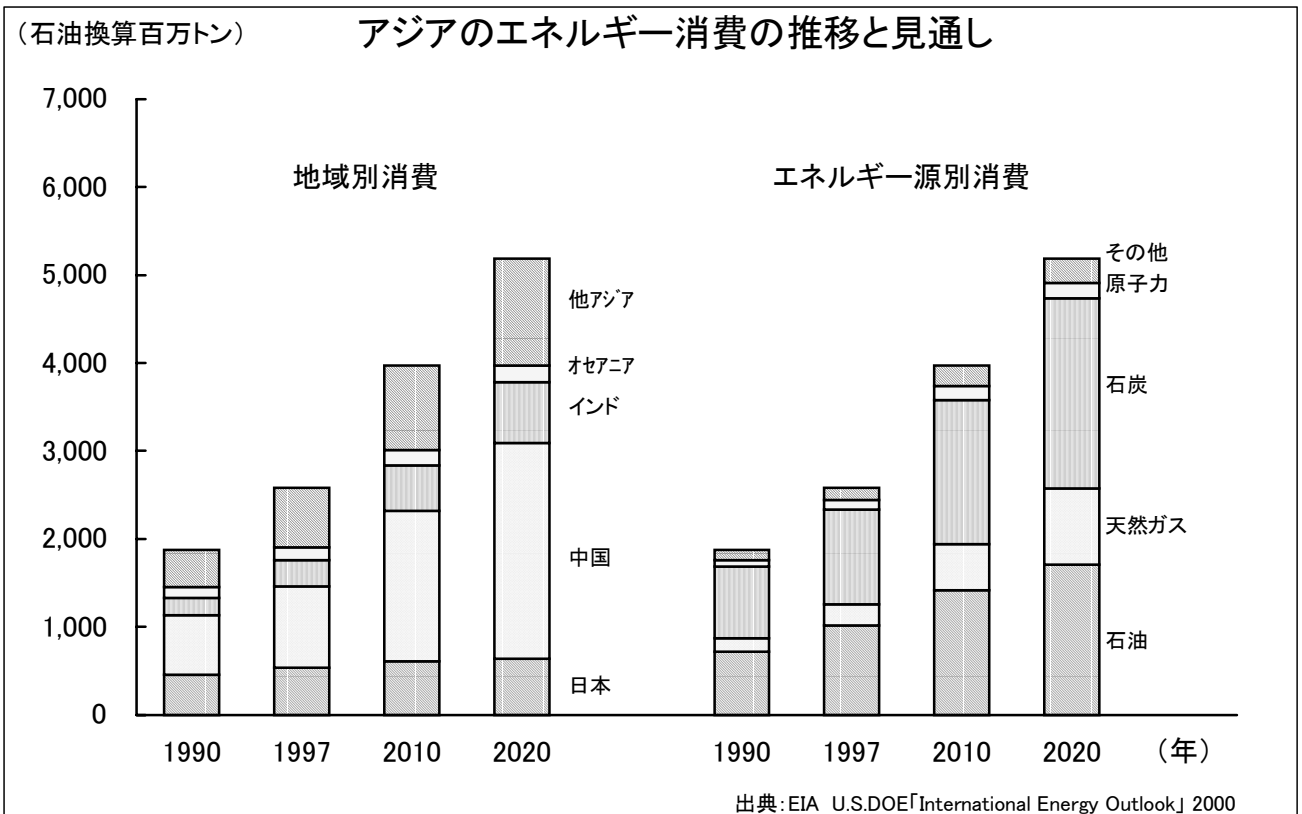
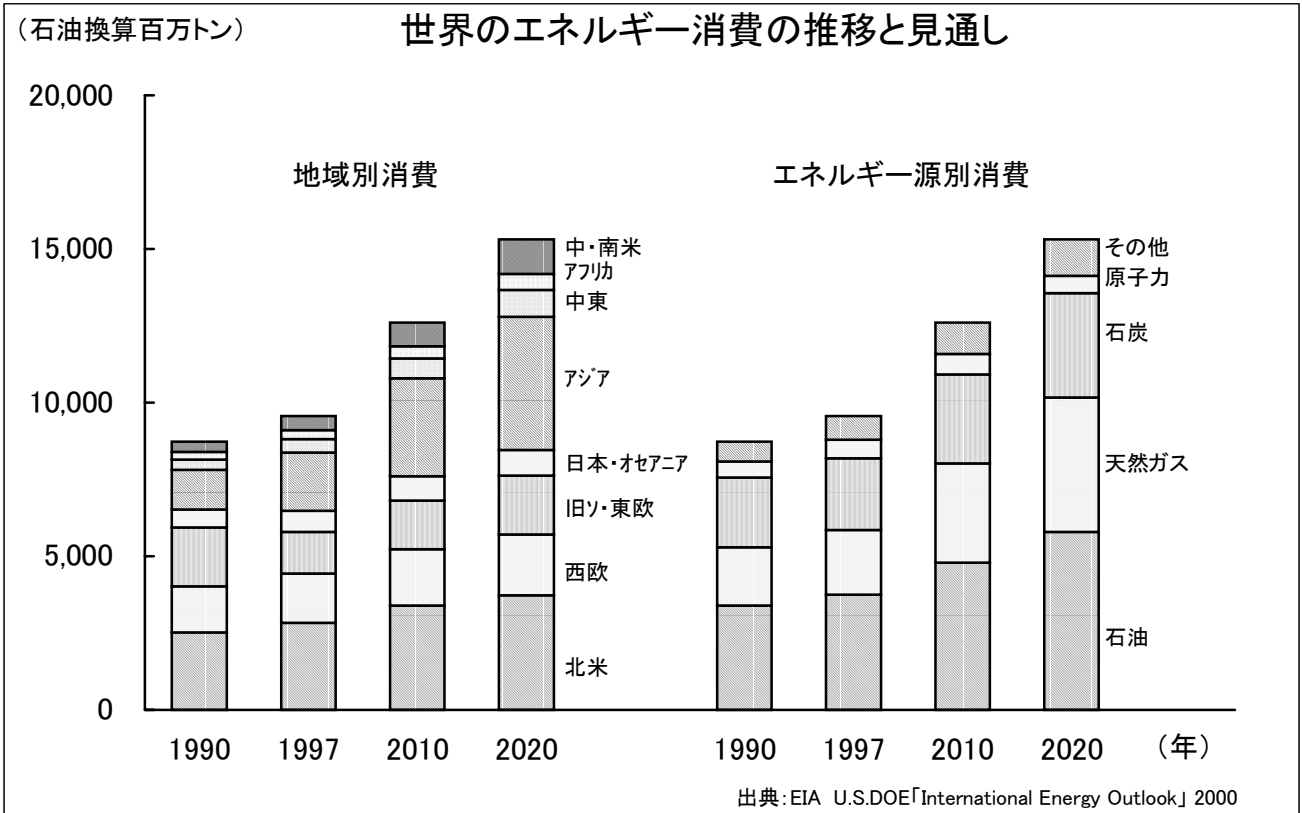
1. 世界の運転中原子力発電所の設備容量の推移



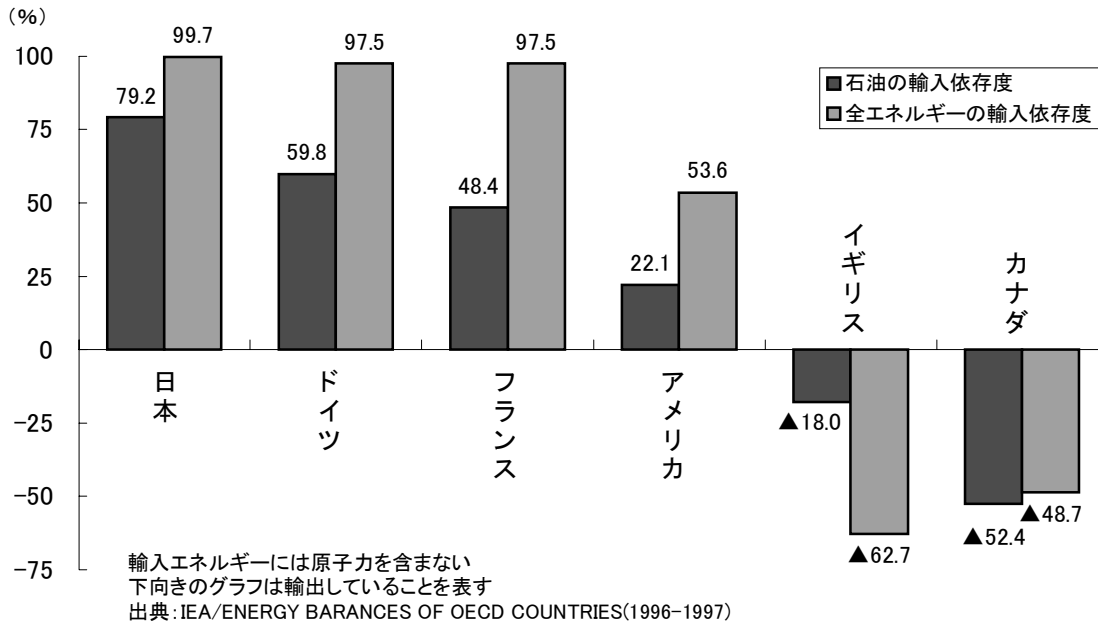
注) 欧州は西欧諸国および東欧諸国の合計(旧ソ連諸国を除く)

出典: 日本原子力産業会議「世界の原子力発電開発の動向」

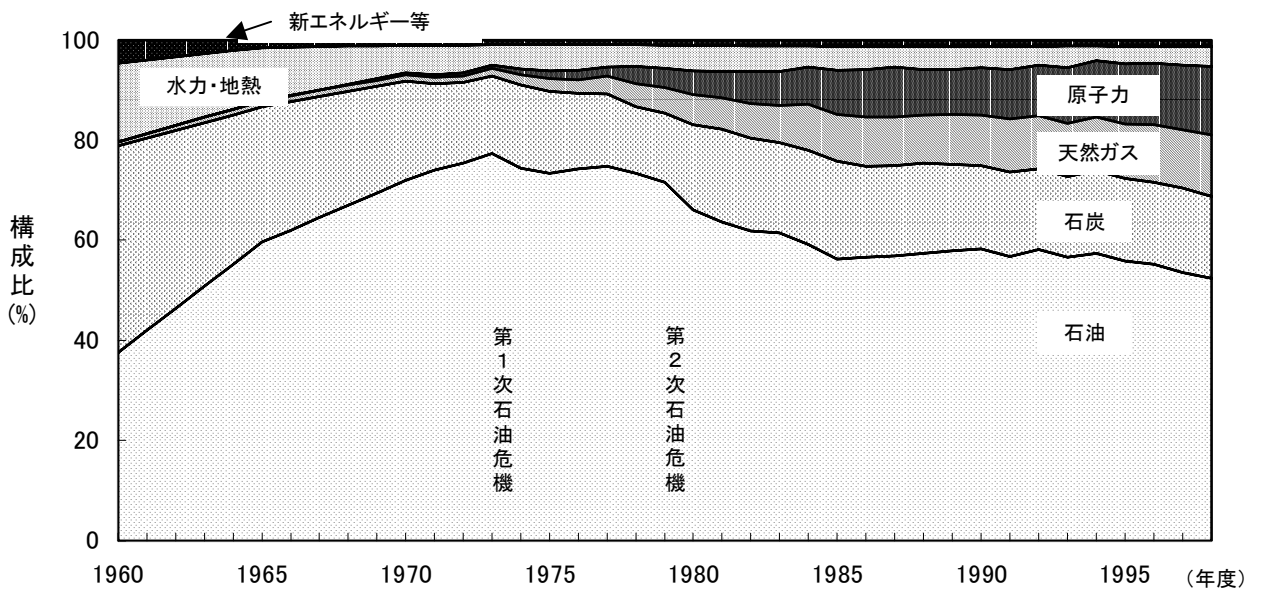
2. 世界及びアジアのエネルギー消費の地域・燃料別将来予想



3. 主要先進国のエネルギー輸入依存度(1997年)

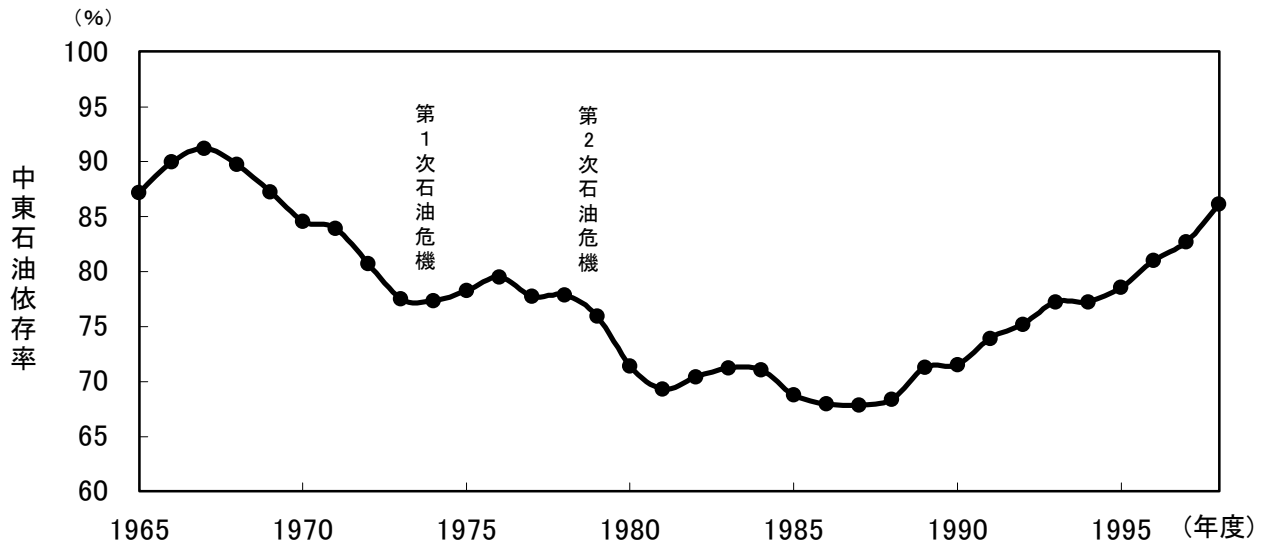


4. 日本の一次エネルギー総供給構成の推移

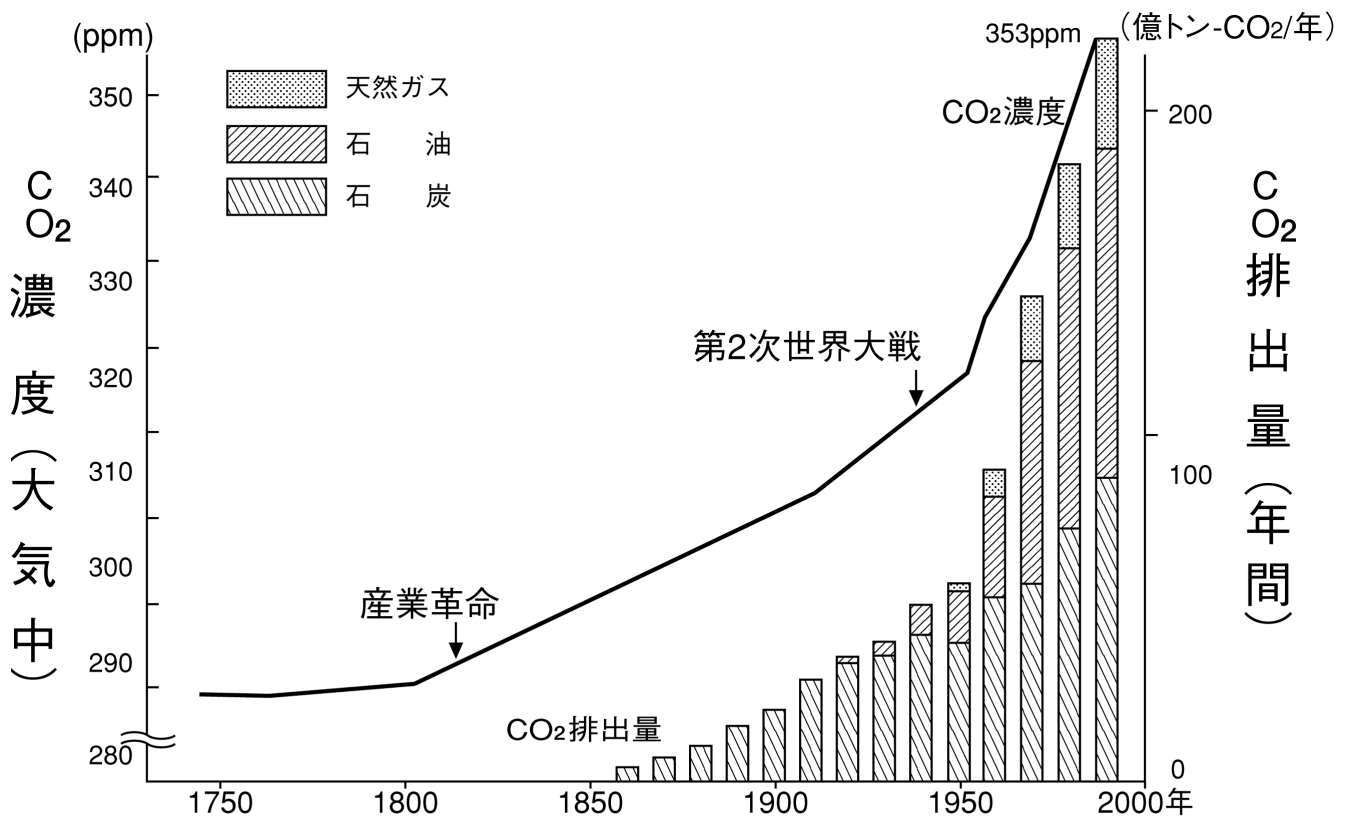


出典: 通産省, EDMC「エネルギー・経済統計要覧」

5. 我が国の輸入原油に占める中東依存率の推移



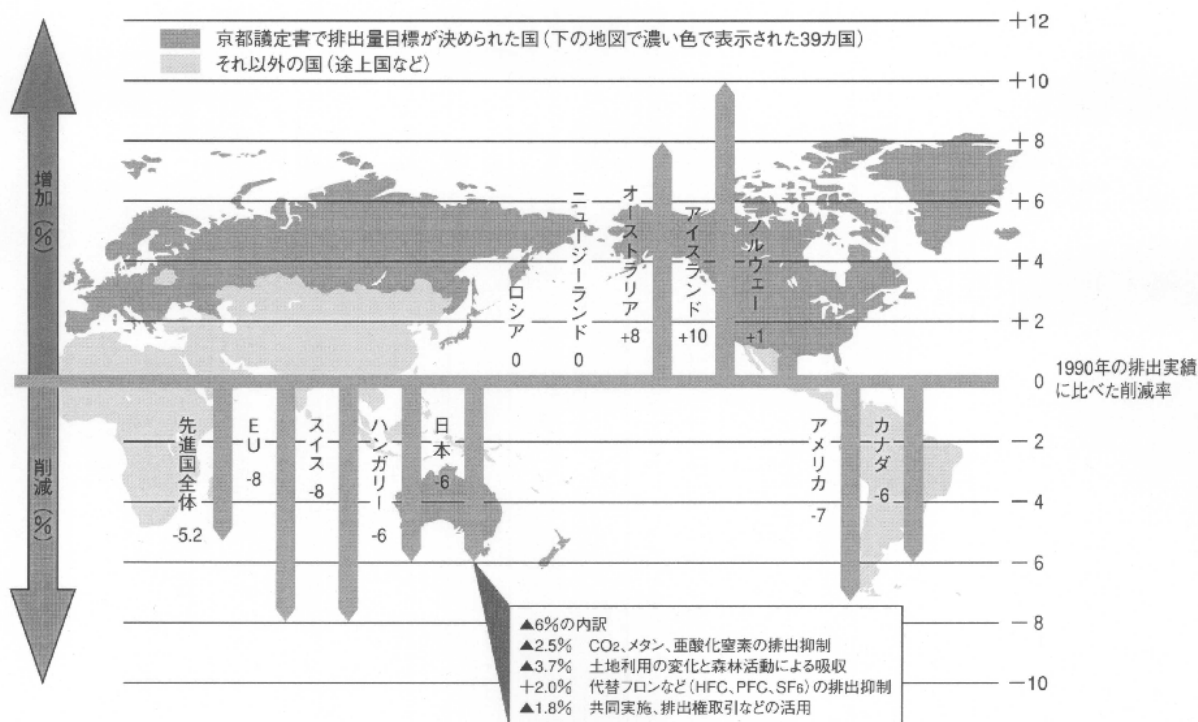
6. 化石燃料からのCO₂排出量と大気中のCO₂濃度の変化



(注)1850年以前の化石燃料データは無いため記載しない。
出典：「Nature」「環境白書」「気象庁資料」
1990年データはエネルギー・経済統計要覧

7. 地球温暖化防止

京都会議で決められた主要国の温室効果ガス排出削減目標（2008年～2012年の期間の目標）



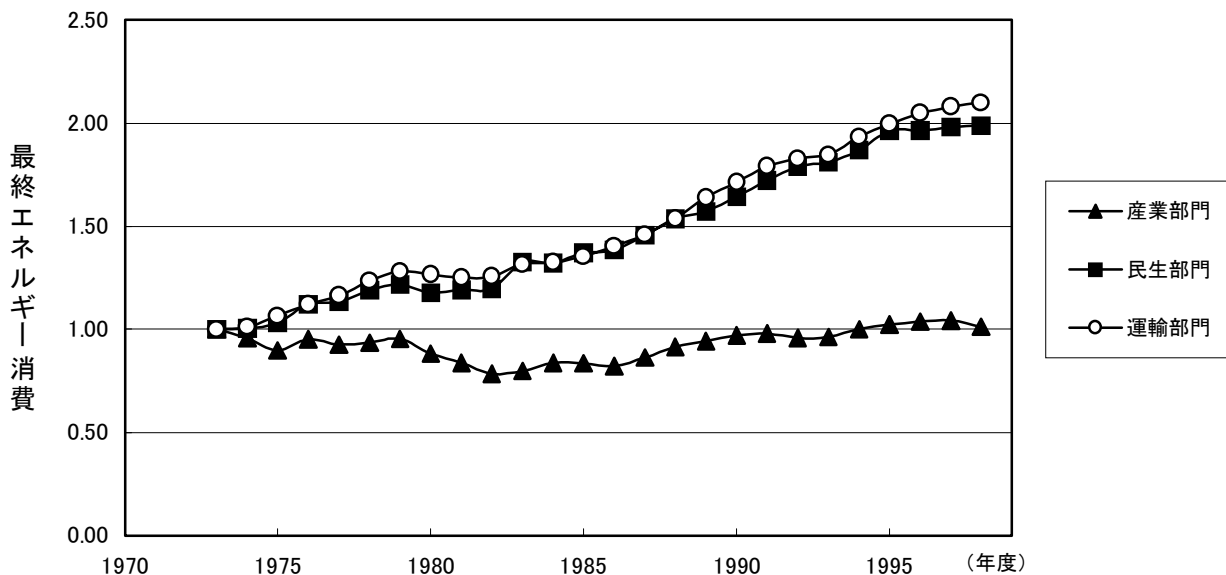
先進国（条約付属書 I 締約国）の排出削減目標のポイント

対象ガス	二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、ハイドロフルオロカーボン（HFC）、パーフルオロカーボン（PFC）、六フッ化硫黄（SF ₆ ）
基準年	1990年（HFC、PFC、SF ₆ については1995年）
吸収源の取扱い	限定的な活動（1990年以降の新規の植林、再植林及び森林減少）により増減した温室効果ガス吸収量を排出量から差し引く。
最初の目標期間	2008年から2012年（この5年間の合計排出量を1990年の排出量の5倍量と比較して削減）
削減目標	①先進国全体の対象ガス的人為的な総排出量を、最初の目標期間中に基準年に比べて、これらの国々の全体で少なくとも5%削減する。 ②先進国ごとの目標を上図のとおりとする。
排出量（排出枠）の取引 [Emissions Trading]	ある先進国の排出量が目標量を下回った場合、その目標量と排出量との差を他の先進国に（有償で）譲り渡し、譲り受けた国の削減量に加える制度。
プロジェクトによる削減量の国際移転 （いわゆる「共同実施」） [Joint Implementation]	ある先進国で対策事業を行い、排出量を減らした場合、その事業による排出削減量の一部を、他の先進国（当該事業への投資国など）の削減量に加える制度。
クリーン開発メカニズム [Clean Development Mechanism]	途上国が排出量などの事業を行い、途上国における環境保全的な開発に役立てると同時に、この事業によって生じる排出削減量を国際的にチェックした上で、先進国（投資国など）に（有償で）譲り渡し、その国の削減量に加える制度。

（注）気候変動枠組条約において先進国として扱われている国（同条約の付属書 I に記載されている国）は 41 カ国
これらのうち、ベラルーシ、トルコを除いた 39 カ国について、京都議定書で排出削減目標が定められた

8. 部門別の最終エネルギー消費の推移

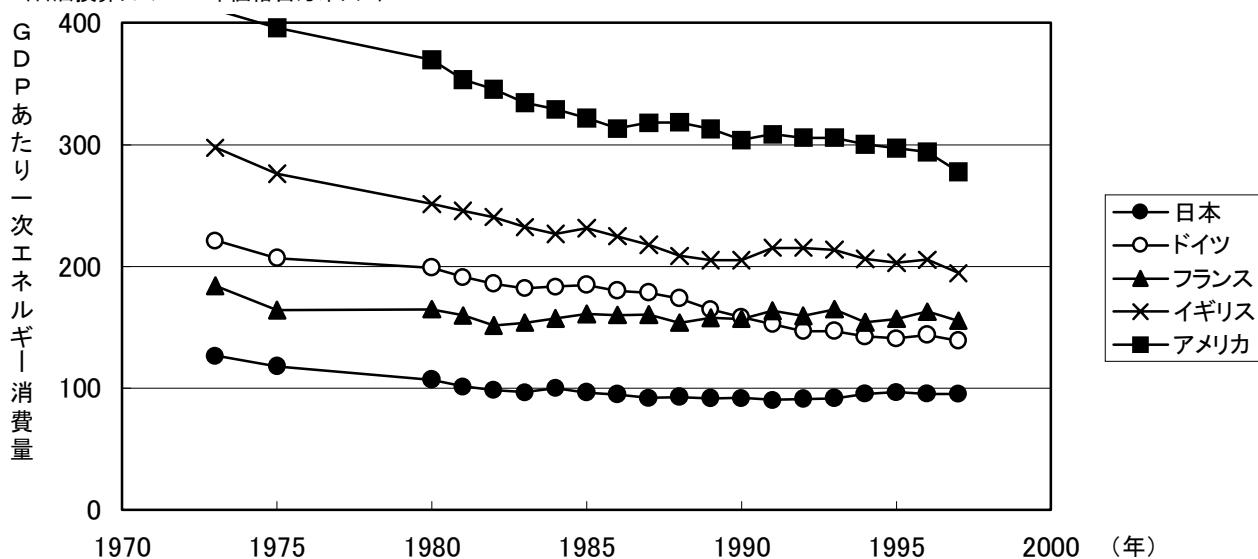
(1973年を1としたときの相対値)



出典：通産省，EDMC「エネルギー・経済統計要覧」

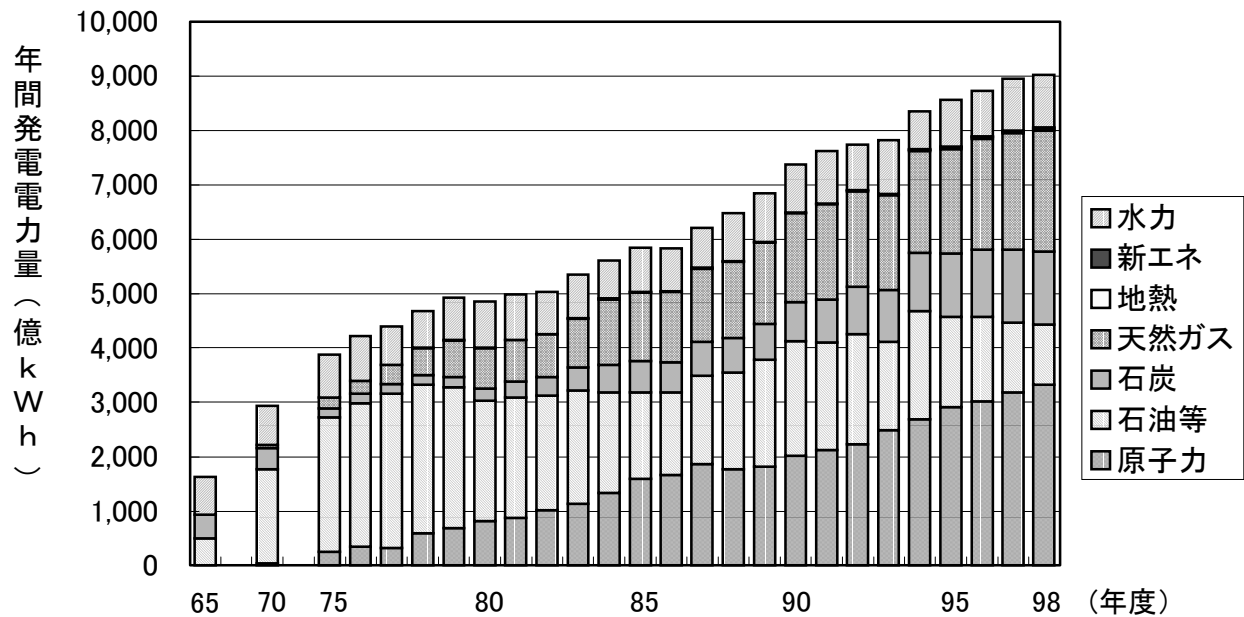
9. 各国の GDP あたりの一次エネルギー消費量の推移

(石油換算トン/1995年価格百万米ドル)



出典：通産省，EDMC「エネルギー・経済統計要覧」

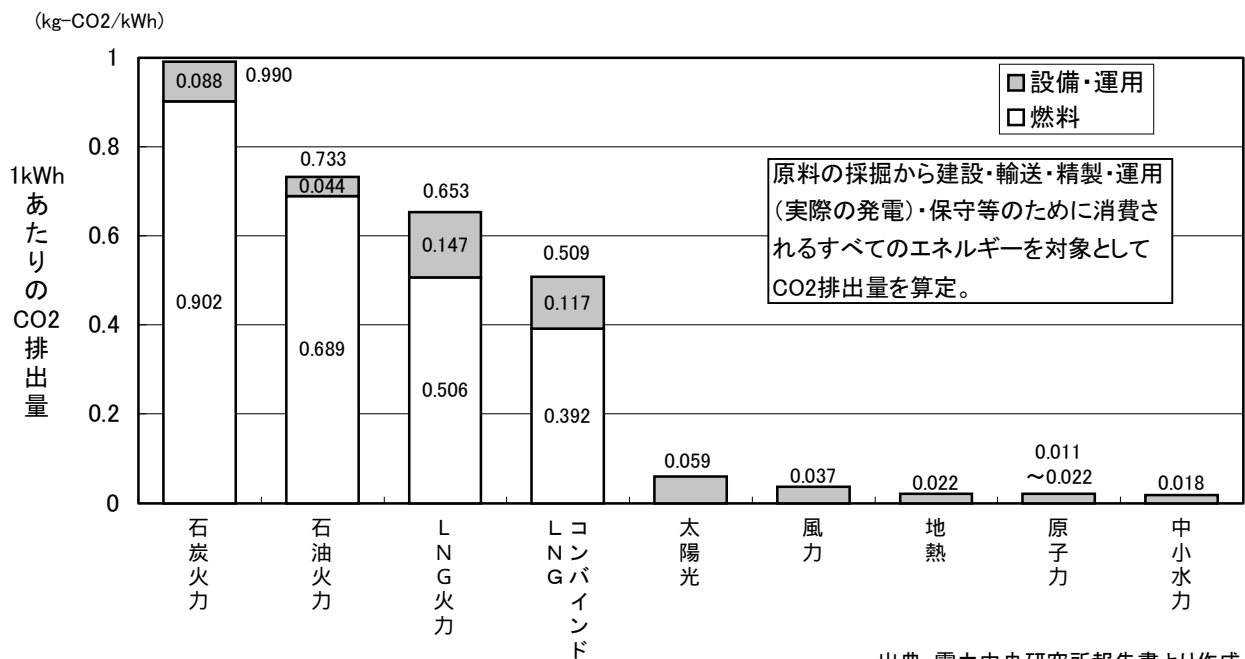
10. 燃料種別毎の日本の年間発電電力量の推移



(注) 新エネは、廃棄物、太陽光、及び風力の合計。LNGには天然ガス、燃料電池及びメタノールを含む。石油等には、LPG、その他ガス、及び歴青炭を含む。

出典：通産省資料

11. 各種電源のCO₂排出量の比較



出典：電力中央研究所報告書より作成